

February 2007

大阪大学図書館報

vol.40 no.1-3

CONTENTS

- 図書館運営委員に聞く **INTERVIEW**
- 本が書架に並ぶまで
- 教員著作寄贈図書のご紹介
- 図書館からのお知らせ
- 図書館サービス紹介 生命科学分館レファレンスデスク

インタビュー

図書館運営委員に聞く

図書館運営委員の望月先生と大学院生の百崎さんに図書館員がお話を伺いました。



「図書館の人には
いろいろ聞いたら悪いと思ってました。」

——まずは百崎さんの日常的な図書館の利用について教えてください。

百崎 必要な時にしか行かない。机のある場所という感じですね。必要な本は研究室にありますし。だから他大学所蔵の資料の取寄せを申込みに行く利用が多いですね。

——図書館で使いにくいと思うことはありますか？

百崎 貸出期間が短いことと、コピー代金が高いことです。豊中キャンパスで学んでいる者にとっては、吹田キャンパスの図書館を利用する場合、学内者にもかかわらずはるばる離れたキャンパスまで借りに行くのだから、とくに貸出期間については融通をしてほしいです。自分に必要な資料をどうさがしていいか、実はよくわからない時もあります。

望月 すぐにでもやっていただきたいことが他にもあります。

最近の学生・院生を見ていて思うことは、基本的な文献情報の書き方を知らない。参考文献目録もきちんと作れない。何をどの順序でどう記載していいのかわかっていないのです。で、図書館の方は、書誌学の専門家なのだから専門性を活かし、公開講座を開いて学生に基本を教える機会を設けてほしい。

——参考文献については、書き方以前に読

活かした、実用的な入門講座をやってほしいですね。学生もその後の勉強に役立つし、ぜひ企画してください。それで、例えば、図書館ウィークなんてのをつくて、この週は講習会の週とかにして、いくつかテーマを設けてやってみたらいかがですか？

百崎 ああ、それは学部生、院生とも助かると思います。

——なるほど。私たちがやるべきことはまだまだ山のようにあり、広い範囲に及ぶことがよくわかりました。少しでも快適な図書館にできるように、何とかしていきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

百崎 私も今日お話をしてみて、我々学生も図書館に関心を持たなすぎたのかなと思いました。ただ本が並んでいるというだけでなく、いろいろなサービスに興味を持ちました。

望月 ぜひ少しずつでも実現してってください。

図書館員に聞いた方が早い

み方を知らない学生さんも結構いるようですから、需要はあるかもしれませんね。

望月 ある特定のトピックスを決めて短い時間で図書館員が持っている専門性を

▶この記事をお読みになった皆様も、図書館に対して「こんなことでよ」「これは何とかならないの」等、ご意見・ご要望がありましたら、是非お聞かせください。

各館にご意見箱があります。Eメールでもどうぞ。
 豊中本館 www.mst@library.osaka-u.ac.jp
 生命科学分館 w3master-ls@library.osaka-u.ac.jp
 吹田分館 w3master-sl@library.osaka-u.ac.jp

<インタビューを終えて>

今回、図書館運営委員である望月先生と大学院生の百崎さんに、お忙しい中ご協力いただきお話を伺うことができました。(望月先生、百崎さん、本当にありがとうございました。) ふだん館内で利用者の方々と接しているだけではわからない、より深い図書館に対する利用者の方々の期待や考えを聞くことができ、私たちにとても、改めて気付くことや感じることがたくさんある非常に有意義な体験となりました。

「ローマは一日にしてならず」一步、一步を積み重ねながら、皆様の期待を実現できるよう努力していきます。もちろんお褒めの言葉も大歓迎ですよ。

ということで、まず第一歩。私たちが新入生のみなさんの授業にお邪魔して、知って得する図書館超活用法を伝授させていただきます。

望月 それは大歓迎ですね。各大学が研究成果物を電子化し、まとめて置いてくれるのはたいへん便利でありがたい。意外と手に入り難い文献もありますから。情報発信のための電子化にも興味があります。また、図書館がその役割を担うのはよいことだと思います。

百崎 博士論文などは日常的によく利用しますし、もし電子化されてアクセスが容易になるととても助かります。

「図書館ウィーク 図書館員の専門性を活かして…」

望月 先ほどお金の話が出ていましたが、予算には人件費という面もある。となると、人件費が有効に活用されているのか、専門職が活かされているのか、という点はポイントで、もっと積極的にアピールしていかないといけないと思います。専門職なのだから、委託で取って代わられる仕事ではないということですよ。

——今、図書館員には何が期待されているんでしょうか？

望月 研究者サイドとしてもこれだけ情報が多様化してくると、どうしても扱いきれないものが出てくるんですよ。そういった時、情報収集のノウハウを持っておられる専門家、つまり図書館員に聞いたほうが話が早いということが増えてくると思います。効率よい検索や広い視野に立った情報のありかの案内など、情報検索のナビゲーターというのはこれからどんどんニーズが高まっていくように思います。

そして情報が出てきたら、じゃあ実際に取りに行くにはどうしたらよいのか、という問題です。すべての情報が電子化されてネット上で手に入るわけではない。となるとこれも図書館員が持っている、所蔵館を探す能力がいる。複合的な情報検索能力が必要となってくるわけです。電子化されているものがすべてと思ってその中で探していると盲点が出てきますからね。

これからは使いやすい図書館と優秀な図書館員を備えている大学の研究者は非常に研究環境がよくなってくると思われます。

——私たちとしても責任の重さをあらためて痛感します。

してフル活用しながら、その場ですべて仕上げてしまう。それに比べて日本の学生は、とりあえず必要な本を探して借りて、後は持って帰って家で勉強しようとする。明らかな違いですね。図書館とは何でもできてしまう場所だということを日本の学生は知らないんです。でも、今の日本の大学図書館でそういったことが本当にできるかと思ったら充分ではないように思います。

——…何が足りないのでしょうか？

望月 まず使い易いスペースと設備。そして、わかりやすくて確かなアドバイスをしてくれる図書館スタッフ。

フランス国立図書館などでは、各フロアにサブジェクトライブラリアン^(※1)がデスクを持っているんですよ。分野の数だけレファレンスデスクがあり、図書館の各フロアも、資料・図書館員・利用者が近接したレイアウトになっている。勉強していてわからないことがあれば図書館員にすぐ聞ける。10歩あるくだけで問題が解決できるんですよ。

そういったサービスをやろうと思ったらできるわけですよ、図書館という空間は。
 ※1 特定分野の専門知識をもった図書館司書
 ——それはとても快適な空間ですね。

望月 さらにそのキャレルを何時から何時まで使える、というように予約が取れるようになっていけば更にいいですね。学生は計画をもって過ごせる。フランス国立図書館では、キャレルを日本からでもインターネットで予約できるようになっています。予算も人員も厳しいかと思いますが、いろいろと工夫していける面はあると思いますよ。

「図書館の新しいサービス」

百崎 将来的な事で言えば電子化された資料、電子ジャーナル、e-bookにもたいへん興味があります。電子化されてい



Prof. Taro MOCHIZUKI

望月太郎先生
 大学教育実践センター教授
 附属図書館豊中地区運営委員

ますし…。

——カウンターでも、「新刊本がない、版が古い、他の大学図書館にはあるのにどうして阪大にはないの?」といった訴えをよく聞きます。私たちも、購入できるものならしたいですし、努力しているのですが、なかなかそうもいかず、せっかく阪大に入学して勉強しようとしている学生さんたちに申し訳ない気持ちでいっぱいです。

望月 大学の中での図書館の役割はいろいろあるでしょうが、なんといっても学生に使ってもらうということが大きな目的と言っていていいでしょう。学生のニーズはどこにあるのか、それを掘り起こしてそれに適応した図書館づくりをしていくことが大事です。そして、図書館の相互協力・相互利用・電子ジャーナル・e-bookの有効利用、いろいろな形のサービスで効率よく利用者のニーズに対応していくことが必要です。それが、予算の節約という面にもつながりませんか？

「図書館とは本来 何でもできてしまう場所 10歩で問題解決」

——ズバリ阪大図書館は、どのような図書館であってほしいですか？身近なところから将来の理想像までお聞かせください。

百崎 阪大図書館の窓口が世界の図書館につながっている、というように世界のどこからでも資料を取り寄せることがスムーズになったらいいですよ。

望月 世界のどこかにその資料があるのだから、引用している人がいるわけで、なんとかそこに行き着きたいと思うのが途中で糸が切れちゃうんですよ。その行き詰まった時に図書館員に糸をつなげてもらいたい。

百崎 それから、書庫の中に机が欲しいですね。本を持ち出して閲覧機で読むのですが、本を取りに行ったり来たりするのが大変。

望月 その机もPCが使い易くてネット接続ができるような個人机、キャレルだといいですよね。実は私がかねがね気になっていることがあります。それは、日本の学生と海外の学生の図書館の使い方の際立った違いなのです。海外の学生は図書館で勉強するということが身に付いている。わからないことがあれば、そこで参考図書やデータベースを調べたり図書館員に聞いたりして解決していく。図書館を勉強部屋として、生活の一部と



Ms. Kiyomi MOMOSAKI

百崎清美さん
 大学院文学研究科
 博士後期課程

——そのような時には是非レファレンスカウンターを利用してください。資料についていろいろアドバイスをいたします。

百崎 えー？そんなサービスが受けられるのですか？いままでも図書館の人に研究資料の調査方法について聞いてみようとは思いませんでした。なんかお忙しそうだし、あまり聞いたら悪いような気がしてました。そもそもカウンターは必要な手続きだけやってもらうところだと思っていました。

——それを伺ってこちらもびっくりしました。

百崎 正直言うと図書館員という人たちが何を勉強していてどのような能力を持った人たちなのかよくわかりません。

望月 レファレンスサービスが何か、そういった有用なサービスがあるのに周知されていないと思いますよ。図書館は、まず、そういったサービスがあるということ、そして図書館で“何ができるのか”を説明しなくてはいけない。他にもあまり浸透していない便利なサービスがあるんじゃないでしょうか？

※便利な図書館サービスについては巻末をご覧ください。

「学生一人あたり 2500円って…?!」

百崎 図書館に置いてある学生のための図書ってどのくらい購入されているのですか？

——学生用図書費は学生さんの頭割りにすると、一人あたりおよそ2500円くらいですね。

百崎 「えっ？少ないですね。」

——…しかも年間で、です。

百崎 (絶句)

——実はこれでも、大学当局の理解をいただき、昨年度・今年度と学内重点経費として増やしてもらっての金額なんです。

百崎 ちょっとびっくりしています。普段私が買う本でも1冊6000円程度はし

本が書架に並ぶまで

図書館で皆さんがなにげなく手に取っている本たち。私たちが本を書店で買うように、その本たちの大半が書店を通じて買ったものです。

1冊の本が図書館の書架に並ぶまでを見てみましょう。

スタート!

選書

大阪大学図書購入・支払依頼書 ① 図書部

発行所コード・請求名	発行責任者
車輪学生希望 0030057000	
新書コード 010, 雑誌交付金 020, 図書部 (その他)	
発行所コード 20101, 教育図書 20102, 研究図書 20104, 教育研究	
種・請求 品 種 品 名 請求品 (請求あり) 4. 請求品	
書名	

図書館の本は、誰が選ぶのでしょうか？
 教員、図書館員が選ぶほかに学生の皆さんの購入希望から図書館で購入する本を選びます。
 写真は本館カウンターにある購入希望用紙です。購入希望は各図書館のカウンターなどで受け付けています。

もし、図書館に置いてほしい本があれば知らせてね。

受入係

発注

納品



こうして選ばれた本は随時発注され、書店から納品されます。

著者から寄贈

受入



書店に代金を支払うための処理をし、一冊一冊の本に資料番号を付けていきます。
 写真は資料ラベルで、貸出・返却や本の所在はこの番号で管理されています。



一冊一冊すべて読破するわけじゃないから、内容に応じて分類番号を付けるのは難しいんだ。

一枚一枚手作業なんです。

装備



背ラベルはシールになっているけどとてもはがれやすいので、カバー用の透明な糊を貼って取れにくくしています。
 また、本の底に蔵書印を押します。

目録係



目録



これは背ラベル、または請求記号と呼びます。本の内容を表す分類番号(一番上の番号)を付けたり、OPACで検索できるように登録するのがここでの作業です。

ゴール!

配架



できあがった本を背ラベルの順に書架に並べます。

本が見つからない… (>_<) そんな事態を避けるべく、定期的に書架の整理を行っています。皆さんも、「利用した本は元の場所へ」よろしくお願いします。



教員著作寄贈図書のご紹介

2006.Jan.～Sep.

寄贈者氏名 (所属) ※敬称略	書名 (出版者, 出版年)	主たる著者など 寄贈先図書館室名
寄贈者のコメント		
谷口 直之 (微・教授)	ゲノム情報を超えた生命のふしぎ：糖鎖 (クバプロ, 2003)	谷口直之 生図
	ポストゲノム時代の糖鎖生物学がわかる (羊土社, 2002)	谷口直之 生図
	Glycosyltransferases and recombinant glycoproteins (1996)	Naoyuki Taniguchi 生図
	Human Disease Glycomics/ Proteome Initiative 1st Workshop 2004 (2004)	- 生図
	糖鎖の機能解析から糖鎖創薬への架け橋：講演要旨集 (2004)	谷口直之 生図
	AMBO International Training Course: innovative research strategies for tomorrow (2001)	Naoyuki Taniguchi 生図
	The 3rd International Conference on the Biology, Chemistry and Therapeutic Applications of Nitric Oxide (2004)	Naoyuki Taniguchi 生図
藤原 千恵子 (医・教授)	看護系大学卒業看護者のキャリア形成に関する探索的研究 (2004)	藤原千恵子 生図
馬越 佑吉 (副学長)	Advanced structural and functional materials design (Trans Tech Publications, 2006)	馬越佑吉 生図、吹図
飯田 哲也 (微・教授)	細菌はなぜ病気を起こすか (クバプロ, 2005)	林英生 生図、微図
福井 希一 (工・教授)	クロモソーム植物染色体研究の方法 (養賢堂, 2006)	福井希一 生図
	クロモソーム：構造と機能 (大阪公立大学共同出版会, 2006)	A.T. サムナー 生図、吹図
池田 光穂 (CSCD・教授)	グローバル化する近代医療と民族医学の再検討 (2005)	奥野克巳 生図
	保健医療協力プロジェクトの持続可能性に関する学際的研究 (大阪大学人間科学研究科, 2006)	天沼直子 生図
	ホンジュラスリプロダクティブヘルス向上プロジェクトに関する学際調査報告書 (大阪大学人間科学研究科, 2006)	中村安秀 生図
	中米地域先住民民族への協力のあり方 (国際協力総合研修所, 2006)	小泉潤二 本館
今本 文男 (微・教授)	DNAチップの開発 (シーエムシー出版, 2005)	松永是 微図
野島 博 (微・教授)	DNAチップとリアルタイムPCR：ラボマニュアル (講談社, 2006)	野島博 微図
	DNAチップの原理と最新のシンポを現在我が国でシェアの大きな企業の技術者を中心に懇切丁寧に解説した。痒いところに手が届く実践にすぐ役立つ内容。	
若山 映子 (名誉教授)	システィーナ礼拝堂天井画：イメージとなった神の慈悲 (東北大学出版会, 2005)	若山映子 本館
	伝統的な図像から大きく逸脱したミケランジェロの天井画構想に隠された思想を、画像と当時の歴史に探り解き明かす、総合的研究書。	

友枝 敏雄 (人・教授)	心と社会をはかる・みる：人間科学への招待 (九州大学出版会, 2005)	友枝敏雄 人図
	社会学のエッセンス：世の中のしくみを見ぬく (有斐閣, 1996)	友枝敏雄 人図
	 社会学を初めて学ぶ人のための理論社会学入門。 各章 1 話完結形式の親切なつくりで、多くの大学でテキストとして使用されている。	
	現代高校生の規範意識：規範の崩壊か、それとも変容か (九州大学出版会, 2003)	友枝敏雄 人図
高木 信二 (経・教授)	入門国際金融 第3版 (日本評論社, 2006)	高木信二 本館
	 初版から14年、第2版から7年が経過し、今回、全面改訂した。 「入門経済学」の知識を前提とする学部中級程度の入門書である。	
青竹 正一 (高司・教授)	新会社法 (信山社出版, 2006)	青竹正一 本館
	 H17.6.29 成立の「会社法」、それに関連する特別法の改正、H18.2.7 公布の法務省令を 取り入れた新会社法の体系書である。	
山下 眞弘 (法・教授)	はじめて学ぶ企業法 (法学書院, 2006)	山下眞弘 本館
	 本書は、企業を取り巻く最新の法を初心者から中級まで楽しく読める書物。 会社法・手形法・商法などを具体的に解説している。	
	中小企業の会社法・実践講義 (税務経理協会, 2006)	山下眞弘 本館
	やさしい商法：総則・商行為 新版 (税務経理協会, 2006)	山下眞弘 本館
谷口 勢津夫 (高司・教授)	やさしい商法総則・商行為法 第3版 (法学書院, 2006)	山下眞弘 本館
	 租税法演習ノート：租税法を楽しむ21問 補正版 (弘文堂, 2006)	佐藤英明 本館
新田 保次 (工・教授)	「悪い奴ら」「趣味と実益」など設問の見出しは「税法の本？」と思わせるものだが、 内容は税法の「腕試し」に適した演習書である。	
	参加型福祉の交通まちづくり (学芸出版社, 2005)	- 吹図
吉岡 宗之 (工・助教授)	電子回路入門 (昭晃堂, 2006)	吉岡宗之 吹図
	 初めて電子回路を学ぶ諸君の入門書である。 この一冊に電気回路の復習と、デジタル回路とアナログ回路の基礎を盛り込んだ。	
平尾 俊一 (工・教授)	Redox systems under nano-space control (Springer, 2006)	Toshikazu Hirao 吹図
	 機能分子材料や機能触媒設計に有用な「ナノ空間制御された新規酸化還元システムの構築と機能」に関し、 最新の成果を詳説する。	
関野 徹 (産・教授)	The science of engineering ceramics (Trans Tech Publications, 2006)	T. Sekino 産図
	 最先端セラミックス材料およびその科学に関する最新の研究成果が発表された国際会議より 厳選された216報の論文を収録している。	
中嶋 英雄 (産・教授)	Porous metals and metal foaming technology: MetFoam2005 (The Japan Inst. of Metals, 2006)	Hideo Nakajima 吹図、産図
	 京都で開催されたポーラス金属・発泡金属国際会議の論文集。 ポーラス金属の製法、特性、応用利用の最先端の研究を紹介している。	

順不同

たくさんのご寄贈ありがとうございました。



今後、教員寄贈図書は附属図書館ホームページでご紹介する予定です。

News 利用可能な電子ジャーナルが増えました

どうぞご利用ください

● 電子ジャーナル契約の E-only 化
 全学共通経費および部局分担金により、2007年から Blackwell、Elsevier、Wiley、Oxford、Springer の各出版社の雑誌について E-only 契約に移行することになりました。

これは、各社が提供する電子ジャーナルを契約の基本とし、冊子体は必要なタイトルのみ購入するという形態です。

上記5出版社で4,500誌以上の電子ジャーナルがご利用いただけます。概ね1990年代後半以降の論文が利用できますが、Elsevierの化学系の雑誌コレクションおよびCell Press、SpringerやOxfordについてはバックファイルを導入しており創刊号からの利用が可能です(一部の雑誌を除く)。

● Nature
 Nature 本誌、Nature Materials、EMBO set (Journal + Reports) の電子ジャーナルに加え、2007年から Nature 姉妹誌と Nature Review 誌(生命分担金による)もご利用いただけるようになりました。

● Lippincott
 2007年から LWW Fixed 100 Collection を導入しました(生命分担金による)。これは、日本の医学・看護学・ヘルスサイエンス分野の雑誌(冊子体)の購読状況に基づいて選ばれた、「AIDS」や「Circulation」など100誌の電子ジャーナルコレクションです。

いずれも学内各キャンパスから利用できますので、是非、ご利用ください。

附属図書館は、学内の皆様の教育研究環境の充実のため今後も電子ジャーナルの整備に努めていきたいと存じます。



大阪大学附属図書館 電子ジャーナルのご案内
<http://www.library.osaka-u.ac.jp/others/zassi-1.htm>

News データベースサービスを充実

大変便利ですので是非ご利用ください!

▼ 4月に新しいデータベースを導入します。学内どこからでもどなたでもご利用いただけます。

○「CiNii」(サイニイ)
 国内の学協会誌、大学研究紀要、国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなど、学術論文情報を検索の対象とする国立情報学研究所が提供する論文データベース・サービスです。「機関定額制」の導入により、論文情報ばかりではなく本文の利用できる範囲が広がりました(一部の学協会誌を除く)。

○「J Dream II」
 JST(科学技術振興機構)が作成した、科学技術や医学・薬学関係の文献情報データベースサービスです。

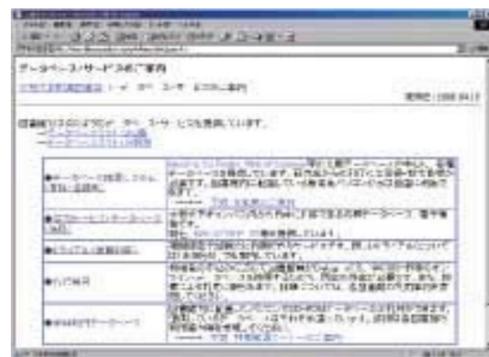
○「Lexis Nexis Academic」
 世界各国の一般の新聞・雑誌記事からビジネス情報、法律情報、医薬情報など幅広い情報が収録されています。

▼ 昨年提供中でした。まだ利用されたことがない方もこの機会に是非ご利用ください。

○「聞蔵 DNA」
 朝日新聞オンライン記事データベースです。1984年8月から「今日」までの480万件以上の記事本文が収録されており、学内どこからでもブラウザから直接利用できます。

▼ 4月から収録範囲が広がります。

○「婦人画報」
 現在、創刊号(明治38年7月)から255号(大正15年12月)までの本文が利用できますが、4月からは256号(昭和2年1月)から482号(昭和19年4月)についても本文が利用できるようになります。



大阪大学附属図書館 データベースサービスのご案内
<http://www.library.osaka-u.ac.jp/others/database.htm>

News 図書館システムの更新等に伴う一部サービスの休止について

ご理解ください

附属図書館では図書館システムの更新を3月に予定しています。この関係で一部の図書館サービスの利用に影響がでますのでご理解をお願いします。

詳しくは図書館ホームページをご覧ください。

URLは下記参照 ↓

News 卒業生への貸出対象者の要件の緩和

さらに利用しやすく

附属図書館では、2005年4月より卒業生への貸出サービスを開始していますが、2006年8月より他大学・専門学校に所属されている卒業生の方も、貸出サービスの利用が可能となりました。

また、2006年4月からは、一般の学外の方にも、貸出サービスを開始しています。

詳しくは図書館ホームページをご覧ください。

URLは下記参照 ↓

News 目録データ入力を進めています(遡及入力事業)

より便利に

図書館の所蔵資料は、4~5ページの「本が書架に並ぶまで」でご紹介したとおり、目録登録をすることによりOPAC(オンライン蔵書目録)で検索可能となります。

附属図書館では、カード目録での検索対象となっている1988年以前の図書目録情報のデータ化(遡及入力)を順次、進めています。

本館を例にとると、現在は学内の予算措置を受けて6カ年計画で書庫棟図書の登録を進めており、また、今年度は国立情報学研究所のNII 遡及事業に採択され、3,000冊を登録しました。

入力された資料は図書館ホームページからOPACで検索できます。OPACをまだ利用したことがない方も是非ご利用ください!



News 貸出館室以外でも図書の返却が可能に

返却が便利に

4月から豊中本館、生命科学分館、吹田分館の各館および人間科学研究科、薬学研究科、微生物病研究所、産業科学研究所、蛋白質研究所の各部局図書室で貸出された図書について、貸出館室以外の各館室でも返却できるようになります(雑誌および一部の図書を除く)。

詳細が決まりましたら図書館ホームページでお知らせします。

URLは下記参照 ↓

2007年4月からは
 借りた図書を
 どの館でも
 返却できるよ!



News 国際シンポジウムを開催しました

いろいろと勉強になりました

11月15日(水)豊中本館図書館ホールにおいて、国際シンポジウム「求められる図書館サービスとスタッフ・ディベロップメント」(主催:国立情報学研究所)を開催しました。

スウェーデン、オーストラリア、ニュージーランドからライブラリアン3氏を招き、海外の大学図書館における図書館職員の養成について講演とパネルディスカッションが行われました。

学内外の図書館職員を中心に105名の参加がありました。スタッフ・ディベロップメントの現状と課題について海外のライブラリアンの話を直接聞くことができ、日本との違いも含めて考える機会となりました。



附属図書館ホームページ URL
<http://www.library.osaka-u.ac.jp>

図書館サービス紹介 生命科学分館 レファレンスデスク



Q 何をするとおところですか？

A 資料探しや資料の利用方法についての相談窓口です。

Q いつ行ってもいいですか？

A レファレンスデスクのサービス時間は平日 9:00～17:00 です。お昼休みや夕方は混みます。サービス時間外をご希望の場合はご相談ください。

Q 誰でも相談にのってもらえますか？

A はい、どなたでもお気軽にどうぞ。

Q 時々人だかりがしていますが？

A グループ（5～6人）での相談やデータベース講習会も行っています。できれば、事前にご予約ください。
(ls-refl@library.osaka-u.ac.jp)



Q メールや電話でも相談できますか？

A 電話はご遠慮下さい。メールもご希望の回答とずれてしまう恐れがあるので、できればレファレンスデスクまでお越しください。

● なんでも相談してみてください

- ・看護研究をしているが、文献をどう検索したらよいか知りたい。
- ・オンラインジャーナルはどうやったら見られるか？
- ・研究計画でテーマをどう絞るか迷っている。先行研究の見方を教えてほしい。
- ・この問題についてどんなスケールがあるか、どれがよいかなど、調べ方を知りたい。
- ・レビューを書こうと計画しているが、対象を何年で切ったらよいか？
- ・投稿規程で「Index Medicus の略誌名を使用せよ」となっているがどうやって調べたらよいか？
- ・自分の論文の引用回数と、誰が引用しているかを調べたい。
- ・論文の投稿先の雑誌をどう選んだらよいか？ Impact Factor 以外に何か方法があるか？
- ・検索して見つけた論文がオンラインでアクセスできない。どうしたらよいか？
- ・引用されている博士論文をぜひ読みたいのだがどうしたらよいか？
- ・論文に載っている図版を自分の本に使いたいのだが著作権の許諾はどこから得られるか？
- ・論文の引用文献リストの書き方が一部わからないので見てほしい。

